



「神様の懷に抱かれて」

2023年10月29日

日本聖公会八戸聖ルカ教会

管理牧師 司祭 ステパノ こしやま てつや 越山 哲也

諸聖徒日は、有名無名を問わずすべての聖人、そして、天国で神のもとにいるすべての人を記念する日です。諸聖徒日(11月1日)と翌日の諸魂日(11月2日)はいわば日本でいえばお盆に相当する日です。日本ではお盆とお彼岸にお墓参りをする慣習がありますが、教会はこの時に墓参の祈りをする慣習があります。そして、諸聖徒日から始まる11月を死者の月として位置付けて過ごします。これは1年の教会暦の終わりの月にあたり、大変意義深いことだと思います。私たちの信仰は地上の生活の死で終わることなく天上の生活へと続いていくこと、そして神の国が完成する時にこの世界を完全に回復し、平和の王としてこの世に来られるイエス・キリストの再臨を待ち望むことを想起するのです。

「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。」(ルカ6:20)

イエス様の平地の説教と呼ばれる冒頭の箇所です。貧しい人とはどういう意味なのでしょうか。

山浦玄嗣(やまうら つぐはる)さんという方を皆さんはご存じでしょうか。山浦さんは岩手県

大船渡市在住でカトリック教会の信徒、医者です。故郷の大船渡、陸前高田の地域を「気仙地方」と言いますが山浦さんは故郷の人々にイエス様の言葉を伝えたいという熱い思いをもって聖書を原典から丁寧に読んでケセング聖書を作成した方です。山浦さんは、この箇所を次のように訳しました。

「頼りなく、望みなく、心細い人は幸せだ。神様の懷(ふところ)にしっかりと抱かれるのはその人たちだ」

すでに地上の生涯を終えられて方々は今神様の懷にしっかりと抱かれているのですよとイエス様は私たちに教えてくださっています。そして私たちもいつの日かその日が来たときには神様の懷にしっかりと抱かれて旅立つのです。

